



令和3年10月27日(水)

# 長崎県内経済情勢報告

令和3年10月

財務省福岡財務支局 長崎財務事務所

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局

長崎財務事務所 財務課

TEL 095-827-7095

FAX 095-811-7030

## 1. 総論

### 【総括判断】

「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（3年7月判断）	今回（3年10月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	➡

（注）3年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

### （判断の要点）

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、一部に底堅さがみられるものの、感染症の影響により、弱い動きとなっている。

### 【各項目の判断】

項目	前回（3年7月判断）	今回（3年10月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	➡
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡
雇用情勢	一部に底堅さがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	一部に底堅さがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	➡
設備投資	3年度は増加見込み	3年度は増加見込み	➡
企業収益	3年度は減益見込み	3年度は減益見込み	➡
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	➡

### 【先行き】

先行きについては、感染対策を徹底し、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されるが、サプライチェーンを通じた影響による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、国内外の感染症の動向の影響を注視する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、感染症再拡大やまん延防止等重点措置の適用により、来店客数が減少したほか、前年の巣ごもり需要の反動減などから、前年を下回っている。

コンビニエンスストア販売額は、前年を上回っている。

家電大型専門店販売額、ドラッグストア販売額、ホームセンター販売額は、前年を下回っている。

乗用車新車登録・届出台数は、前年を下回っている。

観光は、感染症再拡大の影響により、観光施設の休館や修学旅行が中止となるなど、低迷している。なお、足下では、県民向け宿泊割引の再開や緊急事態宣言の解除により、個人客や修学旅行客の予約が増加しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 8月以降、感染症再拡大やまん延防止等重点措置適用の影響により、来店客数が減少し売上は落ち込んだ。10月以降も催事を予定しているものの、感染状況次第で客足は大きく変動するため、先行きは不透明。(百貨店・スーパー)
- 巣ごもり需要も落ち着き、売上は前年を下回っているものの、10月以降もコロナ禍前と同水準で堅調に推移する見通し。(百貨店・スーパー)
- 来店客数や受注は堅調であるものの、半導体等の部品供給不足による自動車メーカーの減産の影響により、納車の遅れが生じており、売上は減少している。(自動車販売)
- 緊急事態宣言が解除され、10月中旬以降はほぼ毎日修学旅行の予約が入っており、人の流れは回復しつつある。(宿泊)
- 感染症再拡大及び8月大雨の影響により、9月まで休館した。県民向け宿泊割引の再開や緊急事態宣言の解除により、予約件数は徐々に増加しつつあるものの、県外客の動きは鈍い。本格的な業況回復は11月以降を見込んでいる。(宿泊)
- 8月以降、大雨やまん延防止等重点措置適用などの影響により、入場者は大幅に減少した。10月は県内の学校を中心に修学旅行の予約も入っており徐々に持ち直しつつあるが、関東・関西圏からの観光客は引き続き見込めない。(娯楽)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

生産活動を主要業種でみると、電子部品・デバイスは、半導体需要の拡大により、持ち直している。はん用・生産用機械は、厳しい受注環境が続いており、生産高は減少傾向にある。大手造船は、一定の受注残高及び操業を維持している。

- 通信関連・自動車向けなどを中心に広範囲で需要拡大が継続しており、受注・生産量ともに増加し好調であることから、引き続き人員面・設備面の能力拡充に取り組む。(電子部品・デバイス)
- 受注環境は厳しい状況が続いており、今年度の生産高は前年度比漸減する見通し。(はん用・生産用機械)
- 海運市況の上昇を受け、新造船の需要が増加し船価も上昇するなど、受注環境は改善しつつある。(造船)

### ■ 雇用情勢 「一部に底堅さがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」

有効求人倍率は底堅く推移しているものの、新規求人数はコロナ禍前の水準を下回っており、雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により弱い動きとなっている。

- 宿泊客の減少により、ホテル休業中は、雇用調整助成金を活用しているほか、シフトを調整するなどして従業員の雇いを維持している。(宿泊)
- 半導体需要の拡大により、受注が好調なことから、当初の増員計画からさらに追加採用を実施している。(電子部品・デバイス)
- 建設業は、新幹線長崎ルートやスタジアム建設等の駅周辺開発などにより、引き続き求人が増加している。新規求人数は、宿泊・飲食サービス業など建設業以外の多くの業種で、コロナ禍前の水準を下回っている。(労働局)

■ **設備投資** 「3年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年7-9月期

3年度の設備投資額(ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く)は、製造業は前年比81.9%の増加見込み、非製造業は同3.5%の減少見込みとなっており、全産業では同42.7%の増加見込みとなっている。

■ **企業収益** 「3年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年7-9月期

3年度の経常利益(「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」を除く)は、製造業は前年比70.7%の減益見込み、非製造業は黒字転化となっており、全産業では同69.1%の減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数でみると、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(3年7-9月期)の景況判断BSIでみると、3年7-9月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、3年10-12月期は、引き続き「下降」超の見通しとなっている。
- 公共事業を公共工事前払金保証請負金額(3年度累計)でみると、前年度を上回っている。